

# 箱崎まちづくり新聞

発行者：箱崎まちづくり委員会

電話 651-7708

( 箱崎公民館 )

## ♪第9回オータムコンサート♪

11月3日(日)文化の日 19時から箱崎公民館講堂において、九州交響楽団メンバーによる「オータムコンサート」を開催しました。

今年は、弦楽四重奏及びフルートを加えての演奏を、ビオラ奏者の山下さんとフルート奏者の永田さんの楽しいダブル司会で進められました。演奏曲は、ハイドン「弦楽四重奏曲「五度」第1楽章」に始まり、モンティ「チャルダシュ」、ヴィヴァルディ「フルート協奏曲ごしきひわ第1楽章」、ビゼー 歌劇「カルメン」より「アラゴネーズ・ハバネラ」などのクラシック、さらに、アナと雪の女王より「Let it Go」、さだまさし「秋桜」、菅野よう子「花は咲く」などの名曲を全10曲を熱演して頂きました。

アンコールは、第1バイオリンの佐藤仁美さんの「情熱大陸」でした。

会場いっぱい120人以上の校区の方々には秋のひとときを楽しんでいただけたと思います。

今年も11月3日の文化の日に開催する予定です。



## クリスマスイルミネーション&イブイブ祭



毎年恒例のクリスマスイルミネーション、箱崎会館と箱崎公民館の2ヶ所に飾り付けを行いました。青、白、ピンクのLEDが師走の夜の箱崎の賑わいを演出しました。

また、12月23日(火)箱崎公民館前にてクリスマスイブイブ祭を行いました。当日は、エレクトーンの演奏や松翠保育園の園児たちのかわいい歌声が披露されました。



今年もサンタクロースが出現し、プレゼントをもらった子どもたちは大喜びでした。また、寒い中、お集まりいただいた保護者や地域の方々にも手作りの豚汁をふるまい、クリスマス直前の楽しいひと時を過ごしていただきました。

## 唐津街道サミット in 箱崎宿

11月8日に第7回「唐津街道サミット」を箱崎・馬出で開催しました。赤間宿・畦町宿・青柳宿・姪浜宿・前原宿からまちづくりの活動している地域団体のメンバーが集まりました。まずは、箱崎まちづくり委員会及び馬出校区の担当者がまち歩きツアーを実施し、筥崎宮をはじめ名所旧跡を案内しました。

第2部の交流会では、各地域の活動の紹介など情報の交換を行いました。歴史を大切に町家のある町並みを保存する団体や、数少ない観光資源の中でまちの活性化に取り組まれている団体もあり、その活動は参考になるとともに大いに刺激を受けました。



[各地域の活動紹介 in 箱崎公民館]

## 箱崎歴史案内ボランティア



〔浴衣でまち歩き〕

箱崎校区の歴史的資産を案内しながら説明する「歴史案内ボランティア」に積極的に取りくみました。散策ガイド「箱崎そうつくマップ」をもとに自治会連合会社会福祉健康づくり委員会主催の散策ウォーキング大会で校区住民の方、そして観光客に箱崎の名所、旧跡や九大歴史的建造物をご案内、説明しました。

また、箱崎中学校生や箱崎小学校生に箱崎の歴史、宮崎宮史について説明する機会を得て理解を深めました。



## 箱崎の町名由来(第1回) 古田鷹治氏著「箱崎に生まれて」より掲載

箱崎校区自治会では、古くからの町名が使用されており、まちづくり委員会では、その町名のいわれを調査しました。確たる資料は見いだせませんでした。故古田鷹治様の資料に町名由来の記述がありましたので、2回に分けて掲載します。

明治15年(約百年前)(1882年)に、県が各戸長に命じて、提出させたものに字小名調というのがある。大字箱崎の中には小字が約160位あった。現在の町名の中には、小字がそのまま今日まで町名になっているのもあれば、太平洋戦争を境に離合集散、新しい町名になったものもある。

箱崎地区にも、いろいろと懐かしい小字や町名があるので、少しばかり振り返ってみたい。例えば、箱崎小学校の敷地は浜畑といって箱崎の良圃であったが、現在九大の敷地になっている箱崎キャンパスの約9万坪の広大な構内は、かつて踊堂(おどりどう)、浜小路(はましょうじ)、寺脇(てらわき)、地藏松原(じぞうまつばら)、北畠(きたばたけ)、細道(ほそみち)、中新建(なかしんたて)、浜新建(はましんたて)等の小字名であった。また、一光寺の裏側から、旧松原電停にかけて製塩所があって、海岸の近かった事を裏付けている。周囲に老松が生い茂り、格好の防風林の役目を果たしていた松浜町も懐かしい。

現在の箱崎二丁目の山崎元町長さん宅裏辺りから北は、延々と続く白浜であった。近くには網干し場もあり、遠くに志賀島や能古島を望みながら、営々と網を繕う漁民の姿が容易に想像される。白浜町(しらはまちょう)というのはそこから来ているのであろう。箱崎も随分と海岸線が遠くなったものである。

明治の初め頃は、網屋(あみや)と白浜の名はあるが、まだ立筋(たてすじ)とか、本町(ほんまち)等の地名はない。上の番(現在のふじ屋角から梅嘉辺りまで)中の番(赤のれん附近から浜の方)下の番(本町、新町、新屋敷の大部分)とっており、格調高く私たちの耳には聞こえる。網屋で人家が多く、街の中心をなしていた所を本町といい、新しい町を新町と呼ばせ、南北の通りを立筋としたのであろう。さらに西に新しく人家が建って、開けて行った場所を新屋敷(しんやしき)と名付けたと思われる。なお、網屋本町(あみやほんまち)の南側を、土手と呼んでいるが、この辺り一帯から小学校裏を抜けて(旧)東警察署附近まで、吹き寄せの砂が庇高さまであったそうである。つまり砂山がつづいていたので土手と呼んだものと考えられる。昔の地図には名島の手前、箱崎側北端に、鯨すまというのがのっているが汐の流れで一年のうちに数十間も移動するそうで、そのすまも今はすでになくなっていて。高須磨(たかすま)というのは、その関係から来た名ではなかろうか。

箱崎には、小路(しょうじ)のつく町名が意外に多い。しかも博多、箱崎では、京都のように「こうじ」と呼ばず、すべて「しょうじ」と呼ぶのである。茶屋小路(ちややしょうじ)、堅小路(たてしょうじ)、中小路(なかしょうじ)、宮崎宮の横が宮小路(みやしょうじ)、今の中央街もかつては後小路(うしろしょうじ)であった。ひっそりした後の小路が、一躍中央街となった。町の移り変わりを垣間見る思いである。

御茶屋跡(おちややあと)とか、古御茶屋というのは、黒田の殿様がお茶屋遊びに立ち寄った所ともいわれるが、一説には唐津街道の宿場茶屋跡というものもある。古い箱崎の人々が、あの附近を、おちん(お亭?)と呼ぶのも面白い。そのおちんだが、あの辺りに黒田藩の洋式調練所があって、その訓練の掛声「オイッチニ、オイッチニ」といっていたのだが、いつかなまって、おちんになったという話もある。

(1979年12月はごさきPTAに投稿)

<続きは次号に掲載>

# 「九州大学キャンパス跡地利用計画」の策定

「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」に基づき、箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分を進めるため、都市基盤整備・土地利用の計画、及び実現に向けた方針などを示すことを目的として、福岡市と九州大学で「九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画」を3月策定しました。以下、概要を記載します。

## 1. 目的

「九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画」は、平成25年2月に提言された「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」に基づき、箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分を進めるため、都市基盤整備・土地利用の計画、及び実現に向けた方針などを示すことを目的としている。

## 2. 策定主体

福岡市、九州大学

## 3. 策定までの経緯

平成25年 2月 跡地利用将来ビジョンの提言

平成25年 7月 箱崎キャンパス跡地利用協議会設置

※平成27年1月までに5回協議会を開催

平成26年10月 民間提案募集実施(九州大学)

※民間提案募集について

・民間需要の動向を把握することや、開発事業者の公募条件等の参考とするため、「民間提案募集」を実施。

・対話事業者として下記の14社を選定し、現在対話を行っている。

・今回の提案募集により、土地取得や開発を行う事業者が決定するものではありません。

(参考)対話事業者

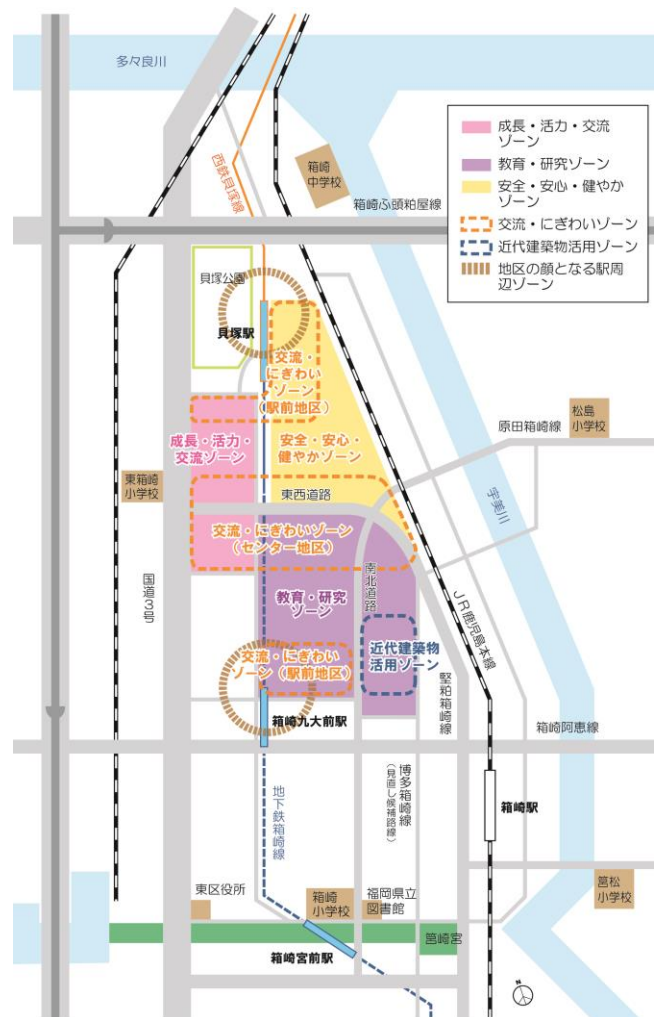
- ・イオンモール株式会社・福岡地所株式会社共同企業体
- ・貝塚病院グループ
- ・グリーングループホールディング
- ・高邦会グループ
- ・次世代都市モビリティ研究会
- ・清水建設株式会社
- ・住友商事株式会社
- ・住友不動産株式会社
- ・大和ハウス工業株式会社
- ・西日本鉄道株式会社
- ・原土井病院グループ
- ・ハローデイ箱崎
- ・三井住友信託銀行株式会社
- ・株式会社モール・エスシー開発

☆箱崎キャンパス跡地に関する対話事業者から提出された「提案概要書」は、下記の九州大学ホームページに掲載されています。

HOME > 箱崎キャンパス跡地計画情報 > 箱崎キャンパス跡地に関する民間提案募集の決定について

## 4. 跡地利用計画の構成

- I はじめに (目的、九州大学統合移転事業の概要)
- II 計画対象 (対象区域、まちづくりの目標年次)
- III まちづくりの考え方 (まちづくりの方針、将来構想)
- IV 都市基盤整備に関する方針 (幹線道路、歩行者自転車ネットワークの形成方針、公共交通利便性の向上方針、緑のネットワークの形成方針)



V 土地利用の方針（ゾーンの考え方）

VI 実現に向けた方針（跡地利用の進め方、まちづくり誘導手法、全体スケジュール）

◆ゾーンの考え方

(1)成長・活力・交流ゾーン

・交通利便性の高さを活かしながら、主に福岡市の持続的な成長に資する、新たな活力・交流を生み出す機能を導入する。

(2)教育・研究ゾーン

・「九州大学」が百年存在した地としてのブランドとともに、九州大学の近代建築物等を活かしながら、個性と創造性に富んだ多様な人材を育成するため、教育・研究の環境づくりにつながる機能を導入する。  
 ・接道条件の良い大街区という特性を活かした一体的な土地利用が可能であるため、教育・研究機能と相互補完・連携し、まちの一体感の形成につながる機能については、その導入を検討する。  
 ・住宅が多く立地している既成市街地と隣接しているため、周辺環境に配慮した機能を導入する。

(3)安全・安心・健やかゾーン

・周辺住宅地への影響、周辺住宅地からの施設利用などを考慮しながら、主に安全・安心・快適で健やかに暮らす環境づくりにつながる機能を導入する。

(4)交流・にぎわいゾーン

〈センター地区〉

・各ゾーンの機能を相互に補完する土地利用や、広場等の交流の場など、ゾーン間の交流を促し、箱崎キャンパス地区の一体感を生み出す機能を導入する。

〈駅前地区〉

・様々な人が利用する公益的な機能や箱崎キャンパス地区の魅力向上、生活利便性向上につながる機能、にぎわい・交流を創出するような機能等、駅前にふさわしい機能を導入する。

(5)地区の顔となる駅周辺ゾーン

・箱崎キャンパス地区および周辺地域の魅力を高め、多くの人が集い交流できる機能や、駅利用者の利便性を高める機能の導入を検討する。

(6)近代建築物活用ゾーン

・九州大学が有する歴史文化資源を大切に、貴重な地区資産として活かすために、工学部本館、本部第一庁舎、正門門衛所、正門については、建物を保存・活用することを前提とし、近代建築物にふさわしい機能を導入する。

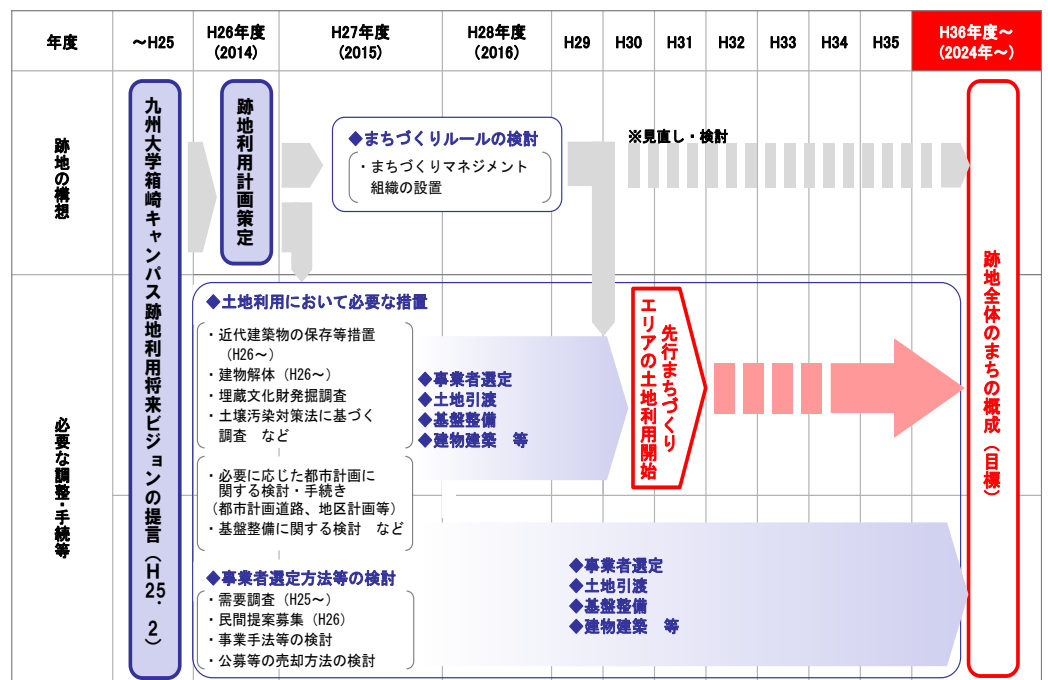
※各ゾーンの規模等は決定されたものではなく、今後の需要動向等に応じて検討していきます。

5. まちづくりの目標年次

先行まちづくりエリアは平成30年度頃から順次土地利用を開始し、まち全体の概成は平成36年度を目標とする。

〈先行まちづくりエリア〉

- ・工学系地区で移転が完了したエリア
- ・建物解体等の措置が不要な文系地区のグラウンドエリア



☆「九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画」は、下記の福岡市ホームページに掲載されています。

HOME > 市政情報・市民参加 > 交通・道路・都市整備 > 都市整備 > 九州大学移転 > 九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり